

# 直方の歴史と文化

直方文学散歩・小説編  
林芙美子の「放浪記」

文 榊正澄

第 59 回

昭和の人気作家であった林芙美子（1903～51）の出世作となった自伝的小説「放浪記」（昭和5年1930年出版）の冒頭が、直方での暮らしから始まることは直方市民にもよく知られています。市内には二つの文学碑があります。



林芙美子文学碑  
(須崎町公園)

## 一・須崎町公園の林芙美子文学碑

昭和56年（1981年）に直方文化連合会（文化連盟の前身）が建立しました。ここから須崎町商店街のアーケードを北進すると、林芙美子の一家が宿泊したとされる宿跡があります。

碑文には、川原勝磨元直方市長の筆による「私は古里を持たない旅が古里であった」という「放浪記」の冒頭の文章からの引用が刻まれて

います。林芙美子の命日である6月28日の前後に毎年、直方文化連盟が林芙美子忌を碑の前で開催しています。



林芙美子文学碑  
(西徳寺境内)

## 二・西徳寺境内の林芙美子文学碑

平成6年（1994年）に明神町の商人宿「入口屋」の宿主の長女で、三つ年下の芙美子と遊んだという渡辺ヤエノさんの遺志で建立されました。

「放浪記」で一家が宿泊する木賃宿の「大正町の馬屋」については、須崎町の「梅屋」説と、明神町（現在では大正町と統合されて神正町）の「入口屋」説がありますが、直方市史下巻での行實正利氏（直方郷土研究会第二代会長）は後者の説です。

この他に、直方文化連盟が数年前に設置した説明板が三つあります。

## 三・多賀神社の馬の銅像の前

「放浪記」に多賀神社の馬の銅像に祈願したとの記述がありますが今の銅像は当時のものではありません。

## 四・西徳寺の境内

文学碑の近くにあります。

## 五・旧「開月館」跡

「放浪記」で「カチュウシャ」を見に行ったとされる映画館で、芙美子の直方滞在の前年に閉館しました。

説明板は開月館跡（のちサンリブ）の駐車場の前の植込みの中です。

## 小学校への通学

「放浪記」では「小学校をやめてしまったのだ」とありますが、近くの北小学校の学籍簿には記録がなかったようで、研究者が作成した年表では鹿兒島と尾道の小学校在籍しか記載されず、この間不明とされています。

## 林芙美子談話室

殿町の向野堅一記念館前で古民家画廊を営む池田暁美さんが「林芙美子談話室」を店内に設け、関連書籍を収集する他、作品の朗読会を毎月開催されています。

## 文化財に関する問い合わせ

文化・スポーツ推進課社会教育係  
(TEL 25-12326)

## 人の動き

■人口 56,625人（-148） ■世帯数 27,220世帯（+139）  
〔うち外国人614人〕  
男 26,759人（-38） 全て令和元年12月末現在  
女 29,866人（-110） （ ）は前年同月との比較



◆発行…直方市  
〒822-8501 福岡県直方市殿町7番1号  
URL <http://www.city.nogata.fukuoka.jp/>  
◆発行日…毎月1日（月1回）  
◆編集…企画経営課ふるさと情報係  
TEL (0949)25-2236 / FAX (0949) 24-3812  
E-MAIL [n-koho@city.nogata.fukuoka.jp](mailto:n-koho@city.nogata.fukuoka.jp)  
◆印刷・制作…株式会社ワールドプリンティング

## <編集後記>

「ハタチでもまだまだ心配 親心」  
人生100年時代の今、成人式を迎えた新成人の人生は、まだ5分の1。新成人を撮影しようとファインダーをのぞくと、そこには、未来に向かって輝く瞳がたくさんありました。(Ki)

携帯電話向け情報提供サービス



直方市  
ホームページ  
市の情報もりだくさん



情報メール  
「つながるのおがた」  
緊急情報、イベント情報など



直方市  
Instagram  
さあ、あなたもフォロー!



直方市バーチャル  
ミュージアム  
直方の文化を隔々まで